

目指す学校像	子どもたちの自信をはぐくみ、保護者・地域の信頼に応える学校 ～笑顔が輝き、あいさつが響き合う仲町小～
--------	--

重点目標	1 教育DX (デジタル・トランスフォーメーション) による学びの自律と個別最適化を実現する 2 安全・安心で健康な学校に向けた、生徒指導・教育相談・食育活動を推進する 3 コミュニティ・スクールを通し、学校、家庭、地域間の連携を図り、方策の共有と行動を進める 4 教職員一人ひとりが力を発揮し、誰もが居心地よい (Well-Being) な教師・教師集団を構成する
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学校自己評価			年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日 令和6年2月29日
1	【学力向上に関する取組】 (現状) ○R4の6年生の全国学力・学習状況調査において、国語・算数・理科は全国や市の平均に比べ良好である。また、R4の3～6年生の市学習状況調査において、国語・算数・理科・社会は市の平均に比べて良好である。 ○学校評価において、「分かりやすい学習指導」の項目で、保護者・児童ともに肯定的な回答が93%を超えている。 (課題) ○市学習状況調査では、各学年・各教科ともに上位層が多いが下位層もいて、個人差がある。 ○研究委嘱の発表を終えたが、研究教科で身に付けた力を他教科等へ生かし切れていない。 ○週3回以上のタブレット活用頻度が市平均より低い。	・学びの自律化の推進 ・個別最適な学びの実現	1 教科担任制を5・6年生で、通年実施 2 全国学力学習状況調査の振り返りと、学力向上カウンセリングの実施と授業改善の実施 3 指導訪問 (1学期) 等を踏まえた授業改善の実施 4 休み時間を確保する日課表の設定 1 個別最適な学びの実現に向けた講演や校内研究授業の実施 2 市教研 (国語・体育・特支) で授業を公開し研究協議を実施 3 指導計画に位置付けたSTEAMSTIMEの実施 4 エバンジェリストを核として、スタディサブリの利用やタブレット活用の実施	1 全国学力・学習状況調査において、国語、算数が、令和4年度の市平均以上を維持することができたか 2 学校自己評価の児童の授業評価において、肯定的評価を維持できたか。 3 学調の振り返り、カウンセリング研修を実施したか 1 学校自己評価の保護者の授業評価において、肯定的評価を維持できたか 2 市教研研修大会で授業公開を実施したか 3 教員のICT機器活用アンケート (CanDo 調査) において、初中級9割以上になったか 4 タブレット活用研修を実施したか	・教科担任制により教材研究を深めた授業や、1学期の市教委による指導訪問、学力向上カウンセリング訪問で指導を受けた学びのポイント「じしゃく」等を意識した授業構想を行うようになった。また、高学年では、家庭での自主学習を進めていった。 ・全国学調の市平均以上を維持した。 ・児童授業評価を維持 (96%→95%) した。 ・保護者授業評価 (93%→95%) を維持した。 ・市教研研修大会で国語、体育、特別支援で合計250名以上の参加者があり、熱心な研究協議が行われた。 ・エバンジェリストによる全体でのタブレット研修は2回行った。そのほか、各学年会や個別での研修を随時行った。 ・Sola る一むを開設した。	B	・教科担任制の継続と指導の充実に努める。 ・全国学力学習状況調査やさいたま市学習状況調査などを踏まえ、児童の実態や社会の要請を踏まえた指導の充実に努める。 ・授業での振り返りを生かした家庭自主学習を実施する。 ・エバンジェリストによる全体研修会を学期に1回定期的に行い、新規に実施されるスクールダッシュボードの活用や、授業での効果的な活用を研修し、指導に生かしていく。 ・Sola る一むの拡大と、教職員の適切な配置によって、個に応じた学習環境を整備する。 ・毎月1回ICT研修を実施する。	・学力差はどこにもあると思うので、引き続き工夫して対応してほしい。 ・Sola る一むというのは、子どもたちがホッとできるよい取組であると思う。人、場所等課題もあるが充実させてほしい。 ・知識の習得にはICTの活用も大事であるが、実体験というのも大事であるのでバランスをとってほしい。 ・ICTの活用は狭く、深く掘り下げる傾向にある。適切に指導してほしい。
2	【安心・安全に関する取組】 (現状) ○いじめは毎年起きていて、担任や組織で対応しているが、見守りを継続している事案もある。 ○長期欠席者が数名いて、関係機関と連携したり担任や学年、学校全体で対応したりしている。 ○心と生活のアンケート等を実施し、子どもの悩みの把握に努めている。アンケートによる要面談者は、いずれの学年も30名程度いる。 ○学校評価での保護者の「いじめ」「生徒指導」「登下校」についての肯定的意見が80～85%である。(課題) ○保護者等との教育相談を積極的効果的に行う。 ○いじめの認知を積極的にを行い、早期対応する。 ○施設等の不備を早期に発見、早期に対応する。	・家庭や地域、関係機関と連携した組織的な対応 ・安全で安心できる教育環境の整備	1 心と生活のアンケート等 (毎学期) の結果を受けて、迅速な面談と記録の実施 2 日常の事件・事故の報告・連絡・相談・確認と、緊急時の組織的な対応 3 道徳の時間を中心とした考える道徳教育の実施と公開 4 SC、SSW、市教委、支援課、児相、相談室、警察等との連携 1 交通事故や食物アレルギー事故の未然防止のため、日々の生活指導と計画的な安全教育の実施 2 事故発生時に適切な対応を行うための計画的な研修の実施 3 登下校時の安全指導の実施 4 すくすく農園の活用	1 心と生活のアンケート設問3「生きていてもよかったと思う」に該当する児童に、即日面談を実施したか 2 学校自己評価の教員の「いじめ対応」についての評価で、肯定的評価を維持できたか 3 授業参観・学校公開等で年に1回以上、全学級が道徳を公開したか 1 学校自己評価の教員・児童・保護者の学校安全の評価において、肯定的評価を維持できたか 2 安全に関わる研修や訓練を全て実施することができたか 3 すくすく農園を活用して、栽培活動を実施できたか	・心と生活のアンケートの実施と対応が迅速になり、その日のうちに児童の面談、必要に応じて保護者への情報提供等を行った。 ・教員のいじめ対応評価 (96%→95%) を維持できた。 ・授業参観・学校公開等で年に1回以上、全学級が道徳を公開した。 ・気になる児童のケース会議を随時実施し、関係機関と連携した。 ・学校安全に関する評価において教員 (84%→88%)、児童 (86%→97%)、保護者 (80%→89%) と、ともに肯定的評価が高くなった。 ・学校保健委員会において、年度当初の搬送訓練の動画を保護者へ提供するとともに、保護者とともに心肺蘇生法訓練を行った。	B	・心と生活のアンケートや簡易アンケート、スクールダッシュボードなどの情報を踏まえて、適切な生徒指導・教育相談を行う。 ・パスデーシールを活用して、児童と児童、児童と教職員が互いに声をかけやすい関係を気付くとともに、進んで笑顔で挨拶できるようにしていく。 ・児童が安全に登下校をすることができるよう、学校では引き続き日常の指導と教職員の登下校指導を行う。また、保護者や地域の方の協力を得ながら登校班や見守りを行っていく。 ・すくすく農園等を継続活用する。	・学校参観に来ると、子どもたちの目標や作品などが廊下に掲示されている。それらを見るとしっかりと自分の考えを書いている。 ・新聞などを見ていると、仲町小の子どもたちが、短歌や将棋などで活躍していることが分かる。子どもたちには、様々な能力や可能性があることを感じる。 ・運動会など児童が前面に出て企画運営している活動を、今後も続けてほしい。
3	【地域とともにある学校づくりに関する取組】 (現状) ○学校運営協議会が始動し、連携・協働体制が構築された。 ○児童数・学級数増による仮設新校舎が増築され、新たに9教室が確保された。 ○地域の活動や行事が少しずつ開催されるようになってきている。 (課題) ○学校教育の充実や地域との連携の強化のため、施設設備の有効活用を図る。 ○学校運営協議会とSSNとの連携により、児童の健全育成に関わる活動を検討、実施する。 ○地域の教育力を生かした教育活動を実施する。	・学校運営協議会とSSNとの連携・協働 ・地域や関係諸機関と連携した教育活動の実施	1 学校・家庭・地域が連携・協働する植栽活動等の実施 2 学校運営協議会の定期的開催と、様々な行事等での臨時開催の実施 3 地域主催行事への児童、教職員の参加 1 学校・家庭・地域の方々との給食会食の実施 2 地域のヒト、モノ、コトを活用した教育活動の実施 3 保・幼連携・小・中一貫を検討する機会の設置と協議を実施する。 4 迅速な情報発信のために、学校安心メールの活用と、配布文書の電子化	1 学校自己評価の地域との連携についての評価で、保護者の肯定的評価が向上したか 2 学校・家庭・地域が連携した、植栽活動を実施できたか 3 地域主催行事に参加できたか 1 給食試食会を実施できたか 2 地域のヒト、モノ、コトを活用した教育活動の実施できたか 3 学校自己評価の「地域との連携」についての評価で、教員の肯定的評価が向上したか 4 配布文書を電子化し、ホームページで閲覧できるようにしたか	・保護者の地域との連携に関する評価 (87%→94%) と高くなった。 ・地元農家や地域サークル、高齢者施設、浦和レッズ等と児童が関わる新規の活動を実施した。 ・PTA や育成会事業等に協力できた。 ・教員の地域との連携に関する評価 (100%→96%) が若干下がった。 ・保護者対象の試食会を2学年実施した。また、学校運営協議会委員やSSN委員、地元シェフらと児童との会食を実施した。 ・保護者への配布物を原則電子化した。また紙配布が必要な方向けのコナーも設置した。	A	・地域主催行事への出演や作品提供、参加等、積極的に奨励していく。 ・今年度同様学校評価等の保護者等の意見を大事に取り扱っていく。 ・SSNの各団体との連携を引き続き図っていく。 ・地域のヒト、モノ、コト等効果的な学習内容は教育課程に位置付けていく。 ・保育園や幼稚園などの就学前施設との連携を、引き続き図っていく。 ・PTAの仲フェスや自治会・育成会事業などに積極的に協力して、子どもたちの健全育成を図る。	・「地域を知る」ということは、とても大事なことで、今後も連携を続けてほしい。 ・地域での活動をするのは良いことだが、今後は子どもたち自らが地域での学びを企画実行していく流れを作ってほしい。 ・運動会や授業参観などについて、保護者等の意見を聴きながらより良い形にしてほしい。
4	【教職員の資質向上に関する取組】 (現状) ○市の研究委嘱の発表を終え、学校全体で学校課題に即した研究を行う下地ができてきている。 ○R4の月平均45時間以上の在職時間勤務をしていた者は1割程度いた。 ○R4はSA8名、AT3名等の補助員がいた (課題) ○研修内容や学校のきまり等を共有化・日常化し、指導の一貫性と指導力向上を図る。 ○初任者、臨任者等の経験が少ない教員の指導力を育成する。 ○やりがいを持った働き方推進のため、学校全体で業務改善と業務の平準化を進める。	・校内研修を核とした研修の実施 ・教職員のやりがいを高める働き方改革の推進	1 指導者を招聘した講義や授業研究・協議会の実施 2 自己評価シートとキャリア振り返りシートを活用した当初面談における研修奨励の実施 3 管理職による毎日の教室巡回と、年1回以上の授業観察の実施 1 教育環境と教育活動の見直しと改善 2 教職員自身の出退勤時刻の把握と、管理職の指導助言の実施 3 効果を高効率化を進めるための、校務支援システムの利用 4 更衣室の拡大による休養室の設置 5 各学年主任・副主任体制の実施	1 学校自己評価の教員の「授業評価」で、肯定的評価を維持できたか 2 管理職による毎日の教室巡回と、年1回以上の授業観察を実施したか 3 当初面談において、研修奨励を実施したか 1 時間外在校等時間が月平均45時間以上の教職員が、1学期から2学期へ半数に減少したか 2 人事異動調査の職場環境についての否定的回答数を維持できたか 3 人事異動調査の満足度についての肯定的回答率が向上したか	・教員の授業評価 (90%→90%) を維持することができた。 ・校長が授業観察を教職員98%に実施し、のべ66回行いながら指導助言した。 ・当初面談での研修奨励と、達成状況面談での振り返りを行い、教職員が自らの研修の見直しを持たせることに努めた。 ・時間外在校等時間の減少は (42%→85%) 半数に減少することができなくなった。 ・職場環境の否定的回答 (5件→3件) は減少した。 ・満足度の肯定的回答 (92%→93%) は維持できた。	A	・学校教育目標の具現化を図るため、市の施策や児童の実態、教員のニーズなどを踏まえた授業研究中心の校内研修を行う。 ・キャリア指標を踏まえ、教職員の強みや弱みを伸ばす個人研修を管理職が共に考え、推奨していく。 ・授業時数の予備時数を見直し、日課表を変更することで、児童に余裕ある学校生活を送らせるとともに、学年会の時間を増やし、質の高い授業を行えるようにする。 ・今年度試行した計画年休の取得を継続していく。	・研修をすることは大事なことで、教職員も忙しいので、業務負担感を持たせないようにしてほしい。